

かごしまメモリアルマッチ 2020 の実施についての Q&A

【概要】

Q1 かごしまメモリアルマッチ 2020 は、県高校総体の代替大会なのか？

A かごしまメモリアルマッチ 2020 は、県高校総体の中止に伴い、高校生活における部活動の区切りとなる場面を設定するために実施するものであるが、本県における新型コロナウイルス感染症感染予防対策の現状を鑑み、多数の人が集まるような場面を作らないよう練習試合形式で実施するものである。

Q2 かごしまメモリアルマッチ 2020 の主催は、どこになるのか？

A 主催は、県高体連であるが、部活動単位での実施となることから、各学校の部活動顧問が運営することとなる。

【実施期間】

Q3 いつから実施できるのか？

A 学校単独で実施する場合は、県教育委員会による登校日以外の部活動禁止などの制限が解除された5月25日以降で、ケガや熱中症の予防に十分な練習量が確保できた時点で実施することが可能である。

複数校で実施の場合は、県教育委員会による部活動における他校との合同練習や練習試合等の実施認められる6月13日以降で、ケガや熱中症の予防に十分な練習量が確保できた時点で実施することが可能である。

ただし、関係競技団体等から示されている新型コロナウイルス感染症に関するガイドライン等を踏まえた上で活動すること。

Q4 いつまで実施することができるのか？

A 進学を希望する生徒が多い学校などについては、多くの生徒が早期に引退することが予想されるため、学校単独で実施する場合は可能であれば6月末までの期間に実施できればと考えている。

複数校で実施する場合は、可能であれば新人大会シーズン前の8月末までの期間に実施できればと考えている。

なお、いずれの場合においても、冬季大会や協会主催大会をめざして活動したが、その大会が中止になってしまった場合に、区切りの場を設定できる期間を設けて、最終期限は12月とする。

【実施方法】

Q5 学校単独で実施したいが、どのような実施方法があるか？

A 競技により様々な実施方法があると思う。対戦型の競技であれば部内での紅白試合形式、その他の競技では記録会や発表会形式など、工夫して行う。

Q6 複数校で実施したいと考えても、近隣にその競技の設置校がない場合や島内に1校しか学校がない場合は、どうしたらよいのか？

A 長距離の移動や宿泊を伴うと新型コロナウイルスの感染リスクが高まることから、そのような場合は、学校単独による発表会、チーム内での紅白試合形式等で実施する。

Q7 複数校で実施する場合の学校数の制限はあるのか？

A あくまでも練習試合として実施することから、2～4校程度と考えているが、最新の国等が示すイベント開催時の人数制限等に準じた参加人数で行う。

もし、その人数制限を超えてしまう場合は、午前・午後で参加校の入れ替えをするなどの対策を講じて、会場にいる参加人数がその制限を超えないようにする。

Q8 実施する場合、平日に行うことはできないのか？

A 練習試合形式のため、土日や夏季休業中に行うこととする。

ただし、学校単独で実施する場合は、平日の部活動の練習時間に実施しても構わない。

Q9 2日間以上の日程で実施してもよいのか？

A 部活動の区切りの場の設定であることから、2週に渡るなど実施期間が長期化することは好ましいことではないと考えるが、三密を回避するなどの感染防止対策等によりやむを得ない場合は、2日間以上での実施を認める。

Q10 実施する場合の会場確保は誰が行うのか？

A 学校単独で実施する場合はその部活動の顧問が、複数校で実施する場合は代表する顧問が会場確保を行う。

公共の体育施設等を使用する際は、主催は県高体連であることから県高体連の会長名で予約しても構わない。使用料の減免の扱いとなるかどうかは、施設管理者の判断による。

Q11 県有施設を予約したい場合、どのように予約したらよいのか？

A 県有施設を使用する場合も使用する部活動の顧問で予約する。その場合、施設管理者と県高体連で「かごしまメモリアルマッチ 2020」としての使用であることを確認するので、速やかに「補助金交付申請書」を県高体連事務局に提出する。

Q12 賞状は、準備してもらえるのか？

A 県高体連ホームページに賞状の様式を掲載するので、必要に応じてダウンロードして使用する。

Q13 引率する顧問の勤務処理はどうか？

県高校総体の中止に伴う高体連主催としての実施だが、練習試合形式での実施であるため、通常の練習試合と同様の対応になる。

Q14 生徒をケガなどにより救急搬送した場合はどうしたよいか？

ケガなどにより救急搬送が必要な場合は、運営責任者に連絡し施設管理者をとおして速やかに通報する。その際は、保護者と管理職にも連絡する。重大事故の場合は、県高体連事務局（理事長：山元晃一 090-7158-8219）に一報を入れる。後日、運営責任者は、県高体連事務局に事故報告書を提出する。

Q15 外部に依頼した審判員等の方がケガをした場合の補償はあるのか？

「かごしまメモリアルマッチ 2020」は県高体連主催であることから「鹿児島県高等学校体育連盟災害補償制度」が適用される。外部（参加する部活動の引率の方以外）の方が参加中に事故による傷害及び特定疾病の発症による死亡、後遺障害、入院、通院が補償の対象になる。

また、自宅と競技会場の往復途上も対象になる。

事故等が発生したら、県高体連事務局まで連絡する。

【補助金】

Q16 補助金の申請は、どのように行ったらよいか？

A 県高体連ホームページに掲載している「かごしまメモリアルマッチ 2020 補助金交付要綱」を参照し、県高体連事務局へ申請する。

Q17 学校単独で実施する場合、具体的にどのような手続きになるか。

A 実施する顧問は、「第1号様式かごしまメモリアルマッチ 2020 参加申請書（学校長印）」並びに「第2号様式かごしまメモリアルマッチ 2020 補助金交付申請書（顧問印）」を作成し、県高体連事務局に申請する。

終了後、4週間以内に「第3号様式かごしまメモリアルマッチ 2020 実績報告書」、「第4号様式かごしまメモリアルマッチ 2020 支出報告書（顧問印）」を作成し、領収書を添えて県高体連事務局に報告する。

Q18 複数校で実施する場合、具体的にどのような手続きになるか。

A 参加を希望する学校の顧問は、「第1号様式かごしまメモリアルマッチ 2020 参加申請書（学校長印）」を作成し、代表する顧問に提出する。代表する顧問は、「第2号様式かごしまメモリアルマッチ 2020 補助金交付申請書（顧問印）」を作成し、参加する学校の「第1号様式」を添えて県高体連事務局に申請する。

終了後、4週間以内に代表する顧問は、「第3号様式かごしまメモリアルマッチ 2020 実績報告書」、「第4号様式かごしまメモリアルマッチ 2020 支出報告書（顧問印）」を作成し、領収書を添えて県高体連事務局に報告する。

Q19 補助金の受け取りは、どのようになるか？

A 補助金交付申請書に記載された振込先口座に振り込みをする。その振込先口座は、なるべく学校、部活動、保護者会などの公的な口座とする。

Q20 補助金は、どのようなことに使用できるのか？

A 補助金は、会場使用料、審判謝金・交通費、医務謝金、競技用具等借用料、熱中症対策飲料、救急用品、消毒液、ハンドソープ、文房具、切手代、通信費等に使用することができる。

補助員謝金、弁当代等には使用できない。

また、不明な点があれば、事前に県高体連事務局に問い合わせる。

Q21 学校単独で、引退試合を実施する場合、補助金で3年生への記念品等を購入してもよいか？

A 補助金は、部活動の区切りとなる場面を設定するためのものであり、生徒個人に贈る記念品等の購入は認められない。

Q22 運営費が補助金額を超えてしまう場合は、どうしたらよいか？

A 参加した学校の部費等で負担する。

Q23 運営費が補助金額に満たない場合は、どうしたらよいか？

A 精算を終える前に、県高体連事務局に相談する。

【新型コロナウイルス感染症防止対策】

Q24 どのような感染防止対策を行うのか？

A 実施する時点での国や県等からの通知にしたがった対策を行うこととし、現時点では、高体連として全競技に共通して以下の対策を行うこととしている。

- (1) 必要最低限の人数で行う。
- (2) 競技会場において、競技中やウォーミングアップ中を除いてマスクを着用させるとともに手洗いや咳エチケットなどの基本的な感染症対策を徹底するように指導する。
- (3) 会場出入口には消毒薬を設置し、会場への出入りや試合の前後等に手の消毒を行わせる。
- (4) トイレなど洗面所に石鹸等を準備し、手洗いやうがいを適宜行わせる。
- (5) 主に参加者の手が触れる場所をアルコールや次亜塩素酸ナトリウムを含有したもので定期的に拭き取りを行う。
- (6) 密閉空間を避けるため、定期的に会場内に外気を入れる換気を行う。

- (7) 密集場所を避けるため、人が集まる観覧席，控え所等では2メートル程度空けさせる。
- (8) 更衣室等の利用に当たっては，短時間の利用としたり一斉に利用したりしないよう指導する。
- (9) 会場への出入りに時間差を設けたり，入れ替え制としたりするなどの工夫をする。
- (10) 密接場面を避けるため，近距離での会話や発声はしないようにさせるとともに，応援は拍手のみで行うように指導する。
- (11) けが人の処置室とは別に，体調不良者用の待機場所を設置する。
- (12) 健康観察の実施
 - ア 選手・審判をはじめ，大会のすべての参加者に大会当日の検温を義務づける。
 - イ 発熱，倦怠感，咳，咽頭痛等の自覚症状があるものは入場させない。
 - ウ 選手については，引率者が健康状況（含む検温状況）を確認し，発熱等の症状がみられる場合は，保護者及び各学校の管理職に連絡し帰宅させる。
 - エ 審判等の役員については，専門部が会場入口で健康チェックを実施する。

Q25 当日，会場で発熱等の自覚症状ある生徒がいた場合は，どのように対応したらよいのか？

A 発熱等の自覚症状がある生徒がいた場合，顧問は，その保護者及び各学校の管理職に連絡し帰宅させる。

Q26 実施前に，中止となることがあるのか？

A 県や国の感染状況により，中止することもある。

Q27 保護者等の応援はできるのか？

A 運営は，必要最低限の人数で行うこととしている。実施する競技により屋内や屋外，会場の収容人数等の違いにより会場への入場可能となる人数が異なるため，保護者の会場への入場を認めるかどうかは，それぞれの運営する顧問の判断による。

ただし，保護者の会場への入場を認める場合でも，試合をしている当該校の3年生の保護者のみとするなど最小限に留め，2メートル程度の距離を空けるなどの対応を行うこととする。